


受賞者氏名	下吹越武人	
所属	デザイン工学部建築学科	
受賞年月日	2021年11月19日	
国内・国外	国内	
授与機関等名称	東京都港区	
受賞名	令和3年度港区景観街づくり賞	

受賞(研究)内容詳細

港区は景観条例と景観計画を制定し、一定の規模を超える新築建物に対して景観協議を義務付けています。そして、港区景観街づくり賞は景観協議を経て竣工した建物の中から委員会によって候補作品が選定され、現地審査を経て表彰される賞です。ある日港区から突然『ルネ麻布十番』の現地審査が行われる旨の連絡があったことをクライアントから聞き、驚いたことを覚えています。現地審査では7名の審査員から様々な質問やコメントを頂き、最終的に予期せぬ嬉しい受賞となりました。


『ルネ麻布十番』は麻布十番商店街の角地に建つ中規模ホテルです。元々、麻布十番温泉があった敷地で、商店街の重要な交差点に位置しています。周囲も含めて江戸から続く都市基層が色濃く残る場所で、商店街の賑わいを継承しながら新しい交差点の風景を築くことを目指して設計しました。

商店街の流れに対し、交差点は溜りの場となります。空間的にも広場のような広がりを生み出すために交差点に面するゾーンを平屋とし、その屋上をテラスとして使えるようにしました。また、角部に植栽を高密度に配置して、人にやさしい空間形成に努めています。

中高層部のファサードは水平リブを積層させて大きなボリュームを分節することで商店街小さなスケールに呼応させるとともに、陰影をもつ奥深い佇まいを創出しています。

研究室では「ひとつの建築が都市をつくる」というテーマを掲げて活動しています。そして、『ルネ麻布十番』は都心部の建築がつくる景観形成について真正面から取り組んだプロジェクトでした。今回の受賞はこれまでの活動の成果が認められたものとして光栄に思いますし、大きな励ましを頂くことができました。これからも都市と建築の良好な関係を追求していきたいと思えます。



受賞者氏名	下吹越武人	
所属	デザイン工学部建築学科	
受賞年月日	2021年11月20日	
国内・国外	国内	
授与機関等名称	公益社団法人 日本建築士会連合会	
受賞名	第1回日本建築士会連合会建築作品賞 奨励賞	

受賞(研究)内容詳細	<p>「K2 house」でまたひとつ賞を頂くことができ、大変光栄に思います。竣工してすでに4年が経過しましたが、作品発表や受賞を通して多くの方々に関心を持って頂き、様々なコメントを得られたことが何よりの財産であり、励ましになっています。建築はわざわざその場について体験しなければわからないことが多く、特に住宅のようなプライベート性の高い建築を社会的に共有することが難しいこともあり、受賞を通して成果を広く社会に発信できるのはとても貴重な機会になります。</p> <p>本住宅を雑誌発表する際に用意した解説文の草稿では、住宅街における庭とまちなみについて言及していて、個人性が宿る庭の連なりがまちなみを形成し、人間の生活風景が現れる、と書きました。最終的には紙面レイアウトの都合で大幅に削除しましたが、この住宅で4年間生活し、住まいとまちなみが連関する住宅地の在り様について気づいたことを記したいと思います。なお、作品の詳細については昨年度の受賞報告で記載しましたので割愛します。</p> <p>当たり前ですが、庭の樹木は手入れが必要です。剪定したり、落ち葉を清掃しなければいけません。恥ずかしい話ですが、それまで長く集合住宅に住んでいたこともあり、家の前の道路は誰が掃除するのか想像したことがありませんでした。引っ越して間もなく、朝何気なく窓の外の様子を眺めていると、家の前に溜まった落ち葉を隣家に住んでいる女性が掃除している姿が目に入り、慌てて家を飛び出しました。それ以来、朝の掃除が日課になりましたが、実際に掃除を続けていると、近隣の方が互いに気配りしながら街の環境を保全していることに気づきます。掃除が行き届いていない時は一緒に掃き、道路に伸びた枝を放置しているといつのまにか剪定されている。庭木を手入れすると次の1週間くらいはかなりの頻度で「きれいになったね!」と声を掛けられる。花が色付くと散歩中の人立ち止まって世間話を始める。樹木をきっかけに、様々な人とのつながりが広がっていくことを実感しています。そして、私はこの家の住人として、地域に少しずつ認知されてきたようです。</p> <p>名前はわからないけど、何となく知っている程度のゆるいつながりが、住宅地の中に定着しているように思います。都心部の古い住宅地ですが、徐々に住人の入れ替えが進み、地域コミュニティの在り方も緩やかに更新されているように感じます。その緩やかな繋がりに大きく貢献しているのが育児やペット、そして庭木です。(もしかすると介護も同様かもしれません。)手間はかかるけど隣人と共有することで少し世界が広がる感じでしょうか。</p> <p>多木浩二は著作「生きられた家」において、家は生きられる空間・時間であることを指摘していますが、日本の住宅地の特徴でもある、家と同じくらいの広さをもつ外部空間(庭)も生きられる空間であり生きられる時間です。内部と外部を一体的に考えることを重視して建築の設計を続けてきましたが、本住宅の経験は空間と時間の関係をより深く考察する契機になりました。</p>
------------	--

